

## 音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

|           |  |
|-----------|--|
| 会議名       | 令和2年度第1回音更町総合計画審議会   |
| 開催日時      | 令和2年7月16日（木） 午後6時30分から午後7時35分  |
| 開催場所      | プロspa6 大ホール  |
| 委員出席者     | 阿部委員、大庭委員、岡田委員、岡庭委員、河田委員、白木委員、土田委員、西川委員、野久委員、野村委員、畠委員、波多野委員、林委員、東端委員、藤川委員、古川委員、三上委員【計17名】  |
| 町側出席者     | 宮原副町長、福地教育長、鈴木総務部長、荒井町民生活部長、重松保健福祉部長、傳法経済部長、下口谷建設水道部長、八鍬教育部長、草浦議会事務局長、重堂企画課長、佐藤総務課長、松井町民課長、高橋福祉課長、早苗農政課長、山本商工観光課長、井原都市計画課長、平賀上下水道課長、藤原学校教育課長、高山音更消防署長、岸本会計管理者【計20名】<br>≪事務局≫渡辺企画財政部長、新名企画課参事（総合計画策定）、大井企画調整係長、田中同主任、松本同主事、津久井まちづくり政策推進員【計6名】<br>≪委託事業者≫株式会社道銀地域総合研究所・柿田主任研究員、渡邊研究員【計2名】  |
| 議題・諮問内容   | 1 会長あいさつ<br>2 議案<br>（1）町の将来人口推計について<br>（2）策定スケジュールの変更について<br>（3）第6期音更町総合計画の方向性について<br>3 その他  |
| 会議資料      | 「音更町の将来人口推計（2020年人口修正版 住基人口ベース）」、「新総合計画策定スケジュール（変更案）」、「第6期音更町総合計画の方向性」   |
| 会議結果      | 下記のとおり   |
| 出された主な意見等 | <p>■ 第6期音更町総合計画の方向性について</p> <p>委員：まちの将来像について、今回の総合計画は、SDGsとの結び付きを意識した内容になっているが、SDGsでは「誰一人取り残さない」というキーワードがある。まちの将来像にも「誰一人取り残さない」というような姿勢や精神などが盛り込まれると良い。</p> <p>事務局：3つの案を用意させていただいたが、「多様性が育む選ばれるまちおとふけ」の多様性や「住みたいと選ばれる持続可能なまちおとふけ」の持続可能というのは、SDGsの理念でもあり、そういった言葉も取り入れて案とした。ご意見も参考にさせていただいて、将来像を設定していきたい。</p> <p>委員：新たな分野として「共生社会」が新設されているが、「多様性」はいいアイデアと思う。計画づくりにおいては、性的マイノリティ、LGBTにも配慮し、こうしたテーマもこの分野に入るという理解で良いか。</p> <p>事務局：「共生社会」は現計画の分野にある「アイヌの人たちの福祉」、「男女共同参画」を包含するものであり、また、多様性も包含することから、LGBTなども多様性ということで、共生社会に含むものとして今のところは考えている。</p> |

|     |  |
|-----|--|
| 委員  | アイヌの人たちについては、福祉分野だけではなく、その文化についても音更のまちづくりに取り入れるべきと思う。「共生社会」にアイヌ文化を含めてはどうか。   |
| 事務局 | 「アイヌ文化」については現計画にも施策がある。次期計画は基本的に現計画を踏襲するという考えで作成を進めており、次期計画においてもこうした考えが入るものと考えている。   |
| 委員  | 地理的条件と沿革・歴史に触れているだけで地域特性の説明としては少々物足りないのではないか。例えば産業特性などの記述があっても良いのではないか。  |
| 事務局 | 現計画では町の現状について産業の記述があるが、その後にある町の課題においても同様の記述があり、内容が重複していたところもあったことから、次期計画では計画全体のボリュームなども考慮し、音更町の課題（p.12）において、町の現状と合わせてまとめたものである。  |
| 委員  | 計画策定にあたっては、農業や観光を軸とした積極的な6次産業化対策を推進するべきではないか。  |
| 事務局 | 直接的に6次産業化との記載はないが、基本目標 1）経済の好循環でつくる元気あふれるまち（p.21）の中で、「～他産業と連携して多様な地域資源を活用した商品・サービスを開発～」（上から2行目）、「～農林業、商業、工業、観光などのさまざまな関係者が他産業と連携して、新たな付加価値を地域にもたらす商品・サービスの創出をめざす」（下から3行目）と記述しており、町としても推進するべきことと考えている。  |
| 委員  | 現在、新型コロナウイルス感染症が世界的な問題となっている。これからの計画づくりにおいては、異常気象、気候変動、ウイルスなどの感染対策について、あらかじめ想定した計画とすべきではないか。   |
| 事務局 | 町としても自然災害や感染症などへのリスク対応は重要なことと考えており、音更町の課題 2）自然環境と生活の基盤（p.12）の中で「～世界的な感染症の流行～災害などに強いまちづくりを推進する必要があります～」（2行目後段から）と記述し、課題に対応する形で、基本目標 2）都市と自然が共生する持続可能な住みたいまち（p.22）では、「近年の自然災害や世界的な感染症の発生などをふまえ、さまざまなリスクに対応可能なまちづくりを～計画的に行っていきます。」（下から3行目）と記述しているところである。計画書の中でどの程度踏み込んだ記述が必要なのかは、基本計画の各分野における対応も踏まえて検討していきたい。 |
| 委員  | 町内会活動が縮小してきている。総合計画を実行に移す際は、職員が町内会に出向いて助言・指導を行って進めてほしい。町内会の会議に役場職員が出席していただければいいと思う。年に1回でもいいので、総会や役員会に参加してもらい意見を交わしてほしい。  |
| 事務局 | 町内会活動に対する支援については広報広聴課を窓口として、町内会の加入促進や活動に対する報償など、様々な取り組みを行っている。このことについては継続して支援を行いながら更なる充実を図っていきたい。意見交換については、連合町内会単位で懇談会なども行っており、お声掛けいただければ対応したい。  |
| 委員  | 将来像の3番目に「大地に広がる」という表現があるが、これはどういう意味合いか。あまり中身の無い表現のように感じる。例えば「支え合う」など協働につながる具体的な文言を入れてはどうか。他の2案は具体的。  |
| 事務局 | 現計画で「豊かな大地」と言っているが、大地というのは、いわゆる農業基盤のことを指し、以前から表現している。文言や表現については、貴重なご意見として参考にしたい。   |
| 委員  | 「商業」の文章（p.12）について、「商業は、音更本町から木野までの国道沿いに～商業ゾーンを形成しています」（上から5行目）とあるが、あたかも音更本町から木野まで連続して商業ゾーンが形成されているかのよう   |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>な印象を受ける。実際は2つのゾーンが存在し、このゾーンを今後どのように融合させていくかが課題の一つではないか。</p> <p>事務局 : 元々、音更市街、木野市街があり、その中間にショッピングセンターができてきて国道沿いを中心に商業施設が立地してきたということが今までの経緯であるが、ご指摘のとおり、まだつながっていない部分があるので、そういったことが今後とも必要だというご意見として承りたい。</p> <p>委員 : 新型コロナウイルス感染症の影響で、今後はこれまでのような状態は望めない。p. 22には「また、近年～」と感染症に触れているが、ここをもう少ししっかりと話し合い、これからのウィズコロナの時代を踏まえ関連する分野など町として具体的に示してほしい。</p> <p>事務局 : まちづくりの基本的な方向性を示すものが基本構想であることから、「～計画的に行っていきます。」と記載しているが、この問題は計画の体系の中であらゆる分野に影響が及ぶことから、いただいたご意見を参考に、関連する分野も含め基本計画の内容を決めていく中で、検討していきたい。</p> |
|--|--|